

大船駅の駐輪場整備は？

2. 需要調査はしている？

まちづくり計画部長によると、定期利用の待機者数、一時利用の満車日数、満車時間などの報告を毎月委託業者より受けているとのこと。しかし、各駐輪場にはゲートがついているにも関わらず、入出庫の時間や台数などのデータは取っていない。満車状況も管理員の巡回時の目視確認とのこと。需要調査をしているとは言い難い。

4. 何故「暫定」なのか？

東口の駐輪場は第1～4まで暫定駐輪場。理由は東口再開発事業の際に再開発ビルへの権利返還を希望されない事業者のための代替地として確保しているため。いつ再開発事業が開始してもすぐに解体できるように、仮設の建物しか建てられない。しかし、約10年再開発事業の進捗はない。

6. 下水道の臭い問題

東口再開発予定エリアの一部は公共下水道が未整備。浄化槽を使用しているが、清掃時に臭気が発生し、駅の利用者から度々意見が上がっている。再開発時に整備することだが、再開発事業が延期になり一向に整備されない。鎌倉市の下水道整備率は97.8%。まちづくり計画部長は「過去に下水道環境の先行整備の検討を行ったが、事業費が高額となため見送った」との回答。

駐輪場は増えるのか？

まちづくり計画部長は、西口に関して「近傍にある市有地を活用して自転車等駐車を整備する方向で調整を進めている」との回答。東口は、暫定駐輪場となっている場所への機械式立体駐輪場の整備による収容台数増は否定したうえで、新たな土地の確保に努めるとの回答。

今後も駐輪場の台数確保と利便性向上に向けて取り組んでまいります。

3. 東口駐輪場の今後は？

老朽化により閉鎖した笠間口近くの東口駐輪場は、駐輪場として再整備予定とのこと。しかし、本年度4月時点で予算をとっていなかったため、12月定例会補正予算で提出。河川上であるこの場所は、雨量の少ない11～5月しか作業ができないため、再整備は令和9年度を見込む。

5. 東口の再開発はする？

大船駅東口の再開発事業は、大型の再開発ビル4棟を建てる計画だったが、東京オリンピックの影響で建築工事費が約1.5倍に高騰。再開発予定地の地権者が得られる再開発ビルの床面積が3割減少、保留地の処分価格を約100万円/坪増額させる必要があるなど、実現性に乏しいことから事業を延伸している。今後について市長は「本市の全庁的な施策の方針ということ踏まえながら然るべき時期に、事業の再開発について判断をしていく」とのことだが、判断を先送りしているに過ぎないのでは？



鎌倉高校前駅周辺にAIカメラを設置

細川の所属する市民環境常任委員会が12日に開かれ、観光課からオーバーツーリズム対策として鎌倉高校前駅周辺に12台のAIカメラを設置するとの報告がありました。観光庁の事業として行われるため、市の負担はなし。期間は12月上旬から2月末。撮影は動画ではなく静止画。踏切を撮影する観光客を撮影場所として誘導しているラッコ公園の様子を、一定間隔で撮影し、鎌倉市ホームページやSNS等でオンライン配信することで、歩道での撮影自粛の呼びかけを実施する。また、観光客の立ち入りや違法タクシーの駐停車が問題となっている場所では、車両の侵入等にAIが反応しナンバーを撮影、判別したナンバーから、回数や滞在時間を把握し警察との連携により取り締まり強化に務めるとのこと。また、ラッコ公園以外の場所からの踏切の撮影を禁止する看板の設置も行う。

その他最新市政情報

宿泊税令和9年10月目標

各議員からの宿泊税に関する質問に対し、市民環境部長は令和9年10月を課税開始目標にすると回答。宿泊税の導入には、条例の変更だけでなく、総務省の同意や宿泊業者との調整が必要のため、約1年半から2年かかるとされている。

第二子保育料の年齢制限撤廃は市長の任期中に？

鎌倉市は第二子の保育料を独自に無償化しているが、兄弟の数え方は国の基準と同じく、第一子が小学校に上がるとカウントされない。これまで兄弟カウントの年齢制限を撤廃しないとしてきたが、今回細川の質問に対し市長は、国に見直しを求めてきたが、鎌倉市として4年間の中でしっかり実現していきたいと考え公約に入れた、と回答した。

鎌倉市議会議員

細川 まなか

平成元年生まれ、台在住の二児の母。小学生と幼児の二児の育児をしながら、要介護5の難病の父親の介護に奮闘中。経産省 OPEN CARE PROJECT AWARD2023 受賞
お茶の水女子大付属高校、麻布大獣医学部卒業
元食品メーカー開発担当、元ANAグループ

